

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

平成 24 年 4 月 5 日

宮崎展昌

日本学術振興会特別研究員 (PD・東洋大学)

平成 23 年度夏学期 個人派遣 PD

研究課題名

『阿闍世王経』の研究——インド仏教思想史上の同経の位置付けに関する検討
と原典研究

派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

(国名)

アメリカ合衆国

(都市名)

カリフォルニア州スタンフォード

(研究機関名)

スタンフォード大学・Ho Center of Buddhist Studies at Stanford

(コンタクトした主な研究者)

Paul Harrison 教授

(2) 派遣期間

(出発日) 2011 年 9 月 20 日

(帰国日) 2012 年 3 月 19 日

(総日数) 181 日間

主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

博士論文で扱った『阿闍世王経』に関して、さらに原典研究を進展させるとともに、同経にみられる思想的な特徴や性格をより探求することで、インド仏教思想史上における同経の位置づけについても考察する。

1 点目としては、『阿闍世王経』チベット語訳について、チベット・カンギュルの諸資料を用いた校合テキストを作成し、それにもとづいた訳注研究を進める。また、漢訳諸本についても、諸資料を用い、大正大蔵経を批判的に取り扱う作業を継続する。2 点目としては、『阿闍世王経』と〈般若経典類〉の関連について検討をなし、同経のインド仏教思想史上における位置づけを探る一環とする。

(2) 実際に達成された成果

1 点目の『阿闍世王経』のテキスト研究に関しては、Autumn Quarter 開始直後に Paul Harrison 教授とチベット語訳テキストの作成方針について相談したうえで、『阿闍世王経』第 VI 章についてチベット語訳校訂テキストおよび諸訳対照テキストとその英訳を作成した。また、Winter Quarter には Harrison 教授のゼミにて『阿闍世王経』第 V 章に相当する漢訳テキスト 2 本を講読する機会を得た。そのゼミで用いる資料として、同経第 V 章のチベット語訳校訂テキストおよび諸訳対照テキストを準備した。ゼミでの講読では漢訳テキストの扱い方について学ぶところが大きく、それらを今後のテキスト作成に生かすことができるであろう。なお、次の Spring Quarter でも Harrison 教授のゼミにおいて『阿闍世王経』サンスクリット語断片を講読予定であるが、それに用いる資料として同経第 XI 章のチベット語訳校訂テキストおよび諸訳対照テキストを作成、準備した。以上のように、派遣期間中、テキスト研究に関しては第 V 章、第 VI 章、第 XI 章についてチベット語訳校訂テキストおよび諸訳対照テキストを作成し、一定の成果を収めることができた。

2 点目の〈般若経典類〉と『阿闍世王経』の関連の調査については、博士論文の出版準備に着手した関係で十分な研究時間を確保することができず、残念ながら具体的な成果を得ることができなかった。

(3) 今後の研究展望

『阿闍世王経』のテキスト研究を継続し、テキスト全体についてチベット語訳校訂テキストおよび諸訳対照テキストを作成し、それにもとづいた訳注研究を完成させることを目指す。博士論文で扱った範囲についても今回の派遣期間中の調査で問題があることがわかったのでそれらを改善していく必要がある。また、インド仏教思想史上における『阿闍世王経』の位置付けを探る調査については、上記のテキスト研究を土台としながら、今回の派遣期間では調査が行き届かなかった〈般若経典類〉はじめ、『法華経』や『華嚴経』『維摩経』『首楞嚴三昧経』などの主要大乘経典との関連について順次調査進めて行く予定である。なお、派遣期間満了後も引き続きスタンフォード大学に滞在予定である。